

## ① リニア中央新幹線 三重・奈良・大阪ルートの早期実現

### 国にお願いすること

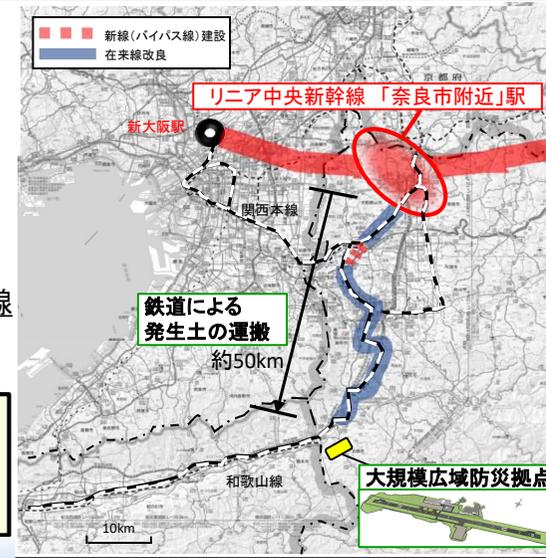
1. 「奈良市附近」の駅位置及び三重・奈良・大阪ルートを早期に確定すること。
2. 2037年の全線開業に向けた早期事業化のため、名古屋～大阪間の環境影響評価手続きに速やかに着手すること。
3. 奈良県内の工事を早期に着工すること。
4. 車両基地を大阪のターミナル駅の近傍である奈良県内に設置すること。



## ③ 鉄道による発生土の運搬

- リニア中央新幹線等の建設に伴う発生土を長期的・安定的に奈良市附近から五條市まで運搬する必要。
- 環境への配慮や脱炭素にも貢献する鉄道による輸送を検討。
- 発生土の運搬に際し、一部バイパス線の建設や線形改良を実施。

■ 関係機関・事業者との調整や技術的な検討を深めるうえで、国からもご指導・ご協力を賜りたく存じます。



## ② 大規模広域防災拠点整備への発生土の活用

- 南海トラフ巨大地震等に備え、紀伊半島全体の救助・支援活動拠点として、2,000m級滑走路を有する大規模広域防災拠点を整備。
  - 本拠点の整備に、リニア中央新幹線等の建設に伴う発生土を有効活用。  
(リニア建設に伴い県内だけで700万m<sup>3</sup>程度の発生土が想定される)
- ⇒ リニア建設に伴う発生土を受け入れ。

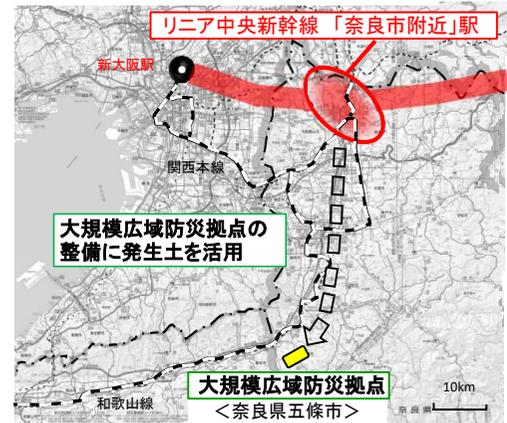
### 大規模広域防災拠点の整備

◆Ⅱ期：600m級滑走路を有する大規模広域防災拠点

◆Ⅲ期：2,000m級滑走路を有する大規模広域防災拠点



谷部を含め、2,000m級滑走路等の整備に大規模な盛土工事を想定



## ④ リニア中央新幹線—関西国際空港接続線の整備

- 在来線を最大限に活用しつつ、新線建設と組み合わせる方式での整備を検討。
- 発生土運搬のために改良した線路も活用するとともに、和歌山線と関西空港を結ぶルートの新設。
- インバウンド観光客や、関東・中部地域からのリニア利用者を、世界遺産等に取り込むとともに、白浜等の観光地を結ぶ。

■ 『ポスト整備新幹線』を見据えた新たな鉄道整備スキームの1つとして、具体化に向けた検討を深めるうえで、国からもご指導・ご協力を賜りたく存じます。

